



アイドルマスター
特集9

虹かけ誌

虹かけ誌 アイドルマスター 特集9

サンプル版

音無小鳥



音無小鳥　していませんよ、そんな妄想

結婚式のリハーサルで疲れた音無小鳥が、ウェディングドレスを着たまま、しゃがんでニヤニヤしている。

「何の妄想？」

「…ん？」

「推測するに、『真が結婚式の直前に花嫁の控室に潜入して、駅弁スタイルのまま持ち帰る』妄想？」

「違いますよ、『真が結婚式の直前に花嫁の控室に潜入して、立ちバックで生挿入して先んじて種付けしちゃう寝取られ』妄想です」

「なんだ、外しちゃった（笑）」

「まだまだですね（笑）」

笑って済ませてなるものか。

妄想の中の菊地真にも、俺は勝つ。

小鳥をお姫様抱っこして花嫁の控室に運び込むと、立ちバックの姿勢で生挿入をしようとする。

「ちょ、ちょっと待って、そういうフライングはね、

反則……」

「妄想の中の菊地真よりも早く、種付けを完了させる」

「ばっ」

ウェディングドレスを破いたり汚さないように細心の注意を払いながら捲り上げ、小鳥の臀部を露わにする。

俺が開拓してから半年が経った小鳥の臀部は、艶と肉付きが完熟味を増している。

手に馴染む尻肉を愛撫しながら、小鳥のシマパンを半分ずらす。

「ダメよ、今されたら、真のと混ざっちゃう！」
おのれ！

「押し除ける！」

「はうっ」

やや強引に、小鳥の中に逸物を突き入れる。

真に種付けされる妄想をした直後だけに、結構な潤滑液が出ている。

今までに正常位で二十三回、バックで十三回、駅弁で二回生ハメしている仲だが、立ちバックで拒否られながらするのは初めてである。

燃える。

喘ぐ小鳥の呼吸を更に乱すために、口撃で燃料を投下する。

「真のと、どっちが大きい？」

「ま、真の方が、太っ」

お仕置きに、腰の突き上げを念入りに連続して行う。

リズムカルに尻肉を腰が打つ音が出ているので、結婚式場のスタッフにも状況は分かるだろう。

誰も邪魔しに来ない。

小鳥の膣内が、『真以外にハメハメされる屈辱』に震えて善がる。

「んん、ん、だめ、真以外の赤ちゃん、孕んじや、らめらの」

妄想で寝取られプレイに没頭する音無小鳥の膣内に、リアルな子種汁を注ぎ込む。

予定した家族計画より二ヶ月早いが、小鳥の子宮を占拠する。

「小鳥、孕めよ」

念入りに精液を注入し、小鳥の卵細胞に命中を願う。

「あん♡ごめんね、真」

「：あのさ、一度菊地真本人の前で、同じ事しようか？」

「すみません。脳内でNTRし過ぎました。えらいすみません」

「でも、それぞれはそれで、燃える」

控室のドアがノックされ、式場のスタッフが切り上げるよう急かす。

すみません、式場をラブホテル代わりにして、すみません。



及川雫 その爆乳、凶暴につき

買って二日目の新車の装甲が、ちょびっと凹んでいた。

コンビニからアイスを買って戻って来た及川雫の爆乳（バスト105）が当たってしまい、凹んだ。

そこ笑うな。

乳ビンタとは、人の首の骨を折る前科が存在する、立派な凶器なのだ。

「：ごめんなさいー」

「いや、これはこれで」

乳ビンタで凹んだ車に乗る男として、俺は本気でこの傷跡を気に入った。

「でもー、これは物損事故ですよー」

「いいから、アイスが溶けちゃう。帰ろう」

及川雫のアパートに行くと、アイスを冷蔵庫に仕舞ってから、及川雫が改めて謝罪する。

「この度はー、私の巨大化した胸がー、プロデューサーさんが無理して買った新車を壊してしまいー、誠に遺憾でいかんでしたー」

頭を下げた拍子に無防備に見えてしまう爆乳の谷間をガン見しつつ、俺は及川雫の罪悪感の有効な活用方法を考える。

「じゃあ：ビキニ水着姿で洗車している様子を、撮影させて欲しい」

「えっちですねー」

とか言いつつも、及川雫は笑って白いビキニ水着に着替えて応じてくれた。

ホース片手に車を洗っている及川雫を様々なアングルで撮影し、ダイナミックに揺れる爆乳を激写する。

これはいい映像を私物化できるぜ、うはははと笑

えたのは、及川雫が車の中までホースで水洗い始めるまでだった。

水の入った場所が悪過ぎたのか、様々な計器類が故障し、修理費が新車の購入費と同額になっていた。

落ち込んでいる俺を慰めようと、及川雫が「ぱふぱふ」をしてくれる。

俺の新車を破壊した爆乳（バスト105）が、俺の頭を全方位で包み込んで、愛撫してくれる。

ややメンタルが回復するものの、足りぬ。

「及川雫」

「はいー！」

「スーパーリアル麻雀の、豊原エツ子のコスプレをして、慰めて」

「：お待ちくださいー」

五分後。

黄色いシャツとスカートとエプロン姿の及川雫が、ニツチなりクエストに応えて姿を表す。

豊原エツ子のコスプレをした及川雫をスクショしまくりに、無茶なポーズを要求する。

「転んでスカートが捲り上がって、パンモ口状態をキープ」

「恥ずかしそうな顔をしながら、スカートを捲って」

「牛乳を飲み干すのに失敗して、口から溢して」

「一枚ずつ脱衣して、最後の一枚を脱ぐ段階で、泣いて敗北宣言をして」

全てに羞恥しながら応えてくれたので、素晴らしい撮れ高になった。

「売れるな、これは。秋葉原で秘密裏に売って、車の修理代にするか」

「あのー、秋葉原で売ったらー、私だとモロバレだ
と思うのですがー？」

そりゃあそうなので事務所で正式な手続きを踏ん
で、コラボ作品として爆売れた。

いや、これだと臨時ボーナスは出るけれど、車の
修理代にはならぬ。



小宮果穂 スーパー戦隊シリーズが終わるなんてヤ

ダヤダヤダ

スーパー戦隊シリーズが五十周年で終了するとの
公式発表を受けて、小宮果穂は沈んだ。

ものの見事に、激しく沈んだ。

「：ダメです、プロデューサーさん：テンションが、

テンションが、全く上がりません」

事務所のソファアの上で、ダンゴムシのように丸くなり、ショックの大きさを表現する。

「一時休止だよ。マンネリ化とか、稼ぎの悪かった部分を反省し、企画を練り直してから再スタートするための休養期間だよ」

「……」

気休めにも、全然飛び付かない。

「仮面ライダーだって、長い休養期間があったからこそ、平成から良いシリーズが再開出来たし、ウルトラマンもガンダムも、休養期間を挟みながらの方が、良い作品を作れるからね」

「……いつ、再開しますか？」

目の中によくないトグロを巻きながら、小宮果穂が絡んでくる。

「16〜20歳ぐらいで、スーパー戦隊にレギュラー入りして、ヒーローショーで敵怪人の断末魔を聴きながら子供達と握手する小宮果穂の野望は、叶えられるか？ ウルトラマンみたいに十五年も間が空いたら、小宮果穂はスーパー戦隊に選ばれずに悲しい余生を過ごすハメになります」

「今度始まる宇宙刑事シリーズで、レギュラー入り出来るように働きかけるから」

「ギャバンと言いながらシャリバンを出す人たちを、どう信用すれば？」

「あれはツツコミ待ちだろう。わざとだよ。東映が、この手の企画で外す訳が」

「スーパー戦隊を終わらせる人たちの言う事なんて、信じられない」

小宮果穂が、ソファアの上でジタバタと暴れる。

ガキの我儘のようだ。

ガキだけど。

仕方がないので、ヒーロー関係の仕事振ってみる。

「さあ、果穂。好きな仕事を選んでいいよ」

小宮果穂は、積み上がった企画書の中から。忍者型ヒーローの企画を選ぶ。

『抱かれ忍者キャンディ 雲隠れ破れ旅 今度は立ちバック？』

タイトルからしてヤバそうなので、取り上げようとしたが、小宮果穂はソファの下に隠れて読み始めてしまう。

五分で赤面しながら、俺に企画書を手裏剣のよう

に投げ返す。

読んで納得。

小宮果穂に該当する女忍者キャンディが、敵忍者に捕まってイヤンバカンされる内容だった。

「や、やめろくくく」

女忍者キャンディ（小宮果穂）は縛り上げられ、複数の敵忍者に囲まれた。

女忍者キャンディ（小宮果穂）の褌が捲られ、敵忍者たちの好色な視線が下半身に集中する。

敵忍者い「初物だな」

敵忍者ろ「これはキレイだ」

敵忍者は「順番は、どうする？」

敵忍者に「射的で決めよう」

敵忍者たちは、勃起した逸物を取り出して、矛先を女忍者キャンディ（小宮果穂）に向ける。

敵忍者い「精液をぶっかけて、最もエロいビジュアルに染め上げた者が、女忍者キャンディ（小宮果穂）の処女膜をいただく」

敵忍者ろ「それだと判定が曖昧になる、顔射の成功者にしよう」

ぶっかけられまいと、可能な限り動いて足掻く女忍者キャンディ（小宮果穂）に、敵忍者が次々と射精して白くデコろうとする。

顔への射精はなんとか回避出来たが、胸元や尻、
太ももには不快な汚液が貼り付いていく。

その体液を逆手にとって緊縛を解こうと、動きが
少し緩んだ瞬間に、顔面に射精が決まってしまう。

目を閉じ、顔から白濁液を拭おうと足掻く間に、
顔射を決めて処女膜を奪う権利を得た敵忍者が、間
合いを詰める。

立ちバックの姿勢で処女膜を貫通しようと、女忍
者キャンディ（小宮果穂）を壁に押し付けて、腰を
押し込む。

女忍者キャンディ（小宮果穂）「や、やめろ、やめ
て、入れるな！」

必死に身を振って、花卉を貫こうと押し付けられ

る逸物から逃れようとするが、二十秒で敵の亀頭が花卉の入り口を捕える。

花卉を弄る亀頭の感触に、女忍者キャンディ（小宮果穂）の口から悲鳴が漏れる。

敵忍者が、女忍者キャンディ（小宮果穂）の臀部へと、腰を一気に進める。

破瓜の衝撃が、絶叫となって女忍者キャンディ（小宮果穂）の喉から放出される。

「だから止めたじゃないか」

俺が確認している間に、小宮果穂はソファの下で別の企画書を読み耽っている。

顔を見ると、エロ本を隠し読んでいる美少女の顔

だ。

「小宮果穂。顔に出ているぞ。その企画書を返しなさい」

小宮果穂は、今の顔を別の企画書で隠しながら、返却する。

その企画書のタイトルは：

『魔法少女キャンディ どっピュンどくどくモンス
ター来襲！？』

同じ奴の企画だろ、絶対に。

一応、確認する。



城ヶ崎美嘉

グラビア撮影倦怠期

城ヶ崎美嘉 グラビア撮影倦怠期

「飽きた★猛烈に、飽きた★」

城ヶ崎美嘉が、今年百四十五回目のグラビア撮影を終えて、愚痴る。

「シチュエーションに飽きた★水着に飽きた★夏に飽きた★太陽に飽きた★バランスボールの上で跳ね

るのにも、バナナを啜えるのにも、ソフトクリームを舐めるのにも飽きた★★★★★★」

グラビア撮影後のカラオケルームでズワイガニピザをコーラで流し込みながら、愚痴る。

「プロデューサーアアアアアアア★仕事のバリエーションを増やしてえええええええ★★★★★」

相当にストレスが溜まっている。

「分かった。楽しいコスプレが出来るグラビア撮影をするように、話を通しておく」

「ありがとう★」

お礼に俺の首筋にキスしながら、俺の匂いを嗅いでストレスを中和しようとしている。

可愛い奴。

俺の方も乳房と股間を愛撫して、自然な形でストレスの緩和を促進する。

後はプロデューサー兼セフレとして、誠意の籠った腰の使い方、互いの性欲を満足させた。

「プロデューサーアアアアアアアア★
★
★
★
★
★

★★★★★

退魔忍のコケティッシュなコスプレをしながら、城ヶ崎美嘉が楽屋の隅で、俺の胃に膝蹴りを入れてくる。

「退屈しないだろ？」

「退屈はしないけどさ」★★城ヶ崎美嘉のイメージ

★ ★ が ヤ バ く な ら な い か な ★ ★ ★ ★ 「

グラビア撮影スタッフは気合を入れて、退魔忍と化した城ヶ崎美嘉を触手プレイでにやんにやんしよ
うと、待ち構えている。

「気合いが入り過ぎていて、怖いよ触手軍団が★」

「両手両足に絡み付いて、白濁液（小麦汁）をぶっかけるだけだよ。ごく一般的な擬似エロプレイだよ」

「一般的じゃない★絶対に一般的じゃない★」

「退屈はしないだろ」

「それで済むと思わないでね★」

とか言いながら、しっかりと触手に絡まれて、喘いで嫌がってプルンプルン震えて白濁液（小麦汁）をぶっかけられた。

何かに目覚めつつある。

と思ったら、シャワーを浴びた後で城ヶ崎美嘉が俺を正座させた。

「次に触手プレイの仕事を入れたら★潰すからね」と宣言して、生足で俺の股間を踏み踏みし始めた。そっちに目覚めつつある。
矯正しよう。



中谷育

魔法少女イクマデ1919

中谷育 魔法少女イクマデ1919

中谷育が魔法少女になれる仕事を前々から望んで

いたので、それらしい仕事を回した。

『魔法少女イクマデ1919』というタイトルに、若干の不信感を覚えたが、育が喜んでいるので話は進む。

三十分の特撮短編企画だが、中谷育がミニス魔法少女コスプレでイメージビデオを撮影するのが主眼の企画だ。

話の筋も、魔法少女イクマデ（中谷育）が街に出かけて、チンピラに絡まれたので魔法の釘バットで殲滅するという、ごく平凡な魔法少女ものだ。

途中で道端にあったバランスボールの上で弾んだり、アイスクリームを舐め舐めしたり、チンピラに無理矢理シュークリームを食べさせられてむせったりするが。

ごく平凡な魔法少女ものだ。

撮影は無事に終了し、中谷育は記念に貰った魔法の釘バット『ルシール3世』を振り回し、ご満悦である。

一週間で、編集済みの映像データが送られて来た。

二種類。

一つは

『魔法少女イクマデ1919 通常版』

二つ目は

『魔法少女イクマデ1919 辛抱たまらん版』

関係者一同を正座させて小一時間説教した後、

魔法の釘バット『ルシール3世』を振り下ろす段取りを脳内で決めつつ、映像を確認する。

『魔法少女イクマデ1919 通常版』は、ちょっとローアングルからのパンチラ修正が甘い以外、問題はなかった。

いや問題だが。

筋まで見えたら、販売出来ぬ。

後で修正させねば。

『魔法少女イクマデ1919 辛抱たまらん版』は、問題だらけだった。

道端のバランスボールで弾んだ中谷育（魔法少女）が、動画生成AIによって魔改造され、二十歳過ぎの巨乳魔法少女に変身してしまった。

その後の中谷育（二十歳の魔法少女）がアイスクリームを舐める映像が、口元にアイスクリームの汚れが付きまくった『擬似・口内射精した直後』みたいな映像になっている。

それを見て興奮して襲いかかるチンピラが、全身に触手を生やした魔人に変身した。

この後のシュークリームを無理矢理食べさせられる映像が、動画生成AIによって、魔人の触手が中谷育（二十歳の魔法少女）の口に突き込まれる映像に改変されている。

口腔に触手に犯される中谷育（二十歳の魔法少女）の顔が、苦味と羞恥に歪む。